

# 平成 25 年度 陵墓関係調査報告

## 陵 墓 調 査 室

### 調査の概要

書陵部陵墓課陵墓調査室においては、陵墓において保全・整備のための土木工事などを実施するに際し、「周知の遺跡」、さらには文献等に記載があることにより、遺跡の可能性がある場合、その施工の区域・箇所における遺構・遺物の有無を確認し、工法の決定に資するため、所定の手続きをふまえつつ、事前調査・立会調査を毎年実施している。

平成 25 年度においても、所轄の陵墓監区事務所や京都事務所などの関係機関、さらには地元の教育委員会とも協力し、以下の区域・箇所において調査をおこなった。その概要を以下に記すこととする。

#### [事前調査] 3 件

本年度は、以下の 3 件において、事前調査をおこなった。

##### 1 深草部事務所（京都市伏見区深草坊町 深草北陵域内）改築工事に伴う調査

桃山監区、9・10月実施、担当：土屋隆史・森 政久・高濱繁伸

深草北陵域内に位置する深草部事務所を建て替えることとなり、そのための事前の調査を平成 19 年度に引き続きおこなった。後掲の報告文を参考とされたい。

##### 2 日本武尊能褒野墓（三重県龜山市田村町）整備工事に伴う調査

畠傍監区、10～12月実施、担当：清喜裕二・横田真吾・土屋隆史

近い将来に外構柵取設等の整備工事が予定されていることから、事前に調査を実施した。その詳細は後掲する。

##### 3 清寧天皇河内坂門原陵飛地い号（大阪府羽曳野市西浦一丁目）土留柵改修その他工事に伴う調査

古市監区、9月実施、担当：横田真吾・濱田武典・笛尾佳裕

来年度に施工を予定している土留柵工ほかに先だって調査を実施した。報文は後掲する。

#### [立会調査] 15 件

##### 4 竹田宮墓地（東京都文京区大塚五丁目 豊島岡墓地内）石柵等改修工事に伴う調査

多摩監区、11月実施、担当：徳田誠志

豊島岡墓地内に所在する竹田宮墓地は、平成 16 年に陥没箇所が発見され、精査したところ、江戸時代の地下蔵であることが判明した（本誌 57 号参照）。その結果、「周知の遺跡」に認定されることになった。今回、正門横の石柵の改修箇所、および燈籠を据直し（2 箇所）することとなり、その掘削・埋戻しに立ち会った。掘削箇所の土層は、いずれも整地層であり江戸期に遡る遺構は検出されなかった。陶磁器等の小片 9 点が出土している。

##### 5 嵐峨天皇嵯峨山上陵（京都市右京区北嵯峨朝原山町）の境界検測に伴う 2 級基準点設置箇所の調査

桃山監区、7月実施、担当：平尾伸也

一般拝所内の西側に新規に 2 級基準点を設置（L 0.5 m × W 0.5 m × D 0.8 m）することになり、そのための掘削・埋め戻しに立ち会った。土層は 2 層に分けられた。上層は拝所整備の盛土と考えられた。下層は岩盤であり、地山と考えられた。遺構・遺物は認められなかった。

##### 6 昭憲皇太后伏見桃山東陵（京都市伏見区桃山町古城山 桃山陵墓地内）第三鳥居改築工事に伴う調査

桃山監区、11・12月実施、担当：北條朝彦・上原孝浩

昭憲皇太后陵のもっとも手前に位置する第三鳥居を改築することとなり、基礎（L 3.2 m × W 2.5 m ×

D 2.3 m) 2箇所の掘削・埋め戻しに立ち会った。土層は2箇所(東と西)とも4層に分けられた。I層は表土、II・III層は明褐色を呈し、II層が砂主体、III層が粘土主体である。IV層は、2箇所とも色調が暗褐色で同じであるが、土質はそれぞれの掘削箇所で特徴が異なっている。東側が粘土主体で、西側が拳大の石が混じる砂主体の土層である。地山は確認されておらず、各土層はいずれも陵前整備の盛土と考えられる。瓦片56点、砥石1点が出土している。

## 7 宇治陵 14号地（京都府宇治市木幡）外構柵改修その他工事に伴う調査

桃山監区、2月実施、担当：坂本博史・今井隆太朗

宇治陵は、藤原氏が出自の宇多天皇女御中宮温子以下20方(17陵3墓)の墓地の総称であり、37箇所に分かれている。陵墓管理上、それぞれに1～37号の番号を付し、字中村に位置する1号地を総遙拝所としている。14号地は字南端にあって、宇治陵ではもっとも南に位置している。現状で一辺10m未満の方墳である。今回、四周をめぐる外構柵を改修することとなり、①. 新規に基礎を設置する箇所(1箇所あたりL 0.3 m × W 0.3 m × D 0.45 m × 24箇所)と、②. 西辺の墳丘崩落防止のための土留板柵設置箇所(鋼管打ち込み用の壺掘り穴：1箇所あたり径0.2 m × D 0.5 m × 8箇所、および植生土のう設置のための壁面の整形：W 4.5 m × H 1.7 m × 1箇所)の掘削・埋め戻しに立ち会った。その結果、①においては4層に分けられ、下2層は上部の崩落土の残存によるものと考えられた。上位2層も色調に明暗があるものの、粘土主体で小礫を含む点など、同様の特徴を備えていた。遺物包含層までは到達していないと考えられる。②は上下2層に分けられた。上層が暗灰色、下層が赤褐色であるが、上下とも粘土主体でやわらかいなど、同様の特徴を備えていた。下層は旧表土であろうと考えられる。いずれの掘削箇所においても、遺構・遺物は確認されなかった。

## 8 明治天皇伏見桃山陵（京都市伏見区桃山町古城山 桃山陵墓地内）参拝者便所新築その他周辺整備工事に伴う調査

桃山監区、2・3月実施、担当：森下利光・角野陽香

桃山陵墓監区事務所の東側に位置する参拝者便所を撤去し、事務所の北側の在来倉庫脇に新築することになった。そのため、①便所新築箇所(L 8.82 m × W 7 m × D 0.5 m)、②給水管埋設箇所(御休所から監区事務所前面まで：L 107 m × G L - 0.3 m ~ - 0.6 m)、③汚水管・給水管埋設箇所(新築便所から監区事務所まで：L 9.7 m × G L - 0.4 m ~ - 1.86 m)、それぞれの掘削・埋め戻しに立ち会った。①では、4層が確認された。もっとも下位にあたる明褐色の土層が比較的安定しているように見えるが、古い盛土か陵前整備にかかる盛土かは判断できない。その上位3層はいずれも既設配管等に伴う埋め戻し土や整地のための盛土と考えられる。地山は確認されていない。②では礫混じりの黒褐色土、褐色土が認められた。既存給水管埋設の際に掘削された箇所であるため、その埋め戻し土と考えられる。地山と判断される土層は確認されていない。③では、明褐色・暗褐色主体の土層が確認された。既存の配管が多く、上位の層はそれらの埋め戻し土と考えられる。もっとも下位の層で暗褐色土層が認められたが、地山ではなく陵前整備の盛土である可能性が高いと考えられる。いずれの掘削箇所においても、遺構・遺物は確認されていない。

## 9 後白河天皇法住寺陵（京都市東山区三十三間堂廻り町）水道管漏水修繕工事に伴う調査

月輪監区、7月実施、担当：堀井 清

本陵の北西に位置する見張所の階段下の手水鉢付近で漏水が発見されたことから、急遽掘削することとなり、掘削(L 約 0.6 m × W 約 0.8 m × D 約 0.6 m × 2箇所)・埋め戻しに立ち会った。確認された土層は、表土および水道管埋設時の埋戻し土と考えられた。遺構・遺物は確認されなかった。

## 10 一條天皇皇后定子鳥戸野陵（京都市東山区今熊野泉山町）法枠中詰石落石予防覆網改修その他工事に伴う調査

月輪監区、11～2月実施、担当：玉石直裕・堀井 清

陵墓地東側の崖面保護箇所(約 655 m<sup>2</sup>)には法枠工が実施されているが、その中詰石が落石する虞があ

ることから、予防覆網の改修その他工事をおこなうことになった。施工は打ち込みによるものであり、掘削は伴わなかったが、念のため立ち会ったものである。

**11 雲部陵墓参考地（兵庫県篠山市東本荘字城山ノ坪）外堤護岸整備工事に伴う調査**

月輪監区、12～2月実施、担当：徳田誠志・森岡正則・安江竜太

本調査の報告文については、後掲する。

**12 雲部陵墓参考地（兵庫県篠山市東本荘字城山ノ坪）境界標識埋設替工事に伴う調査**

月輪監区、2・3月実施、担当：玉石直裕・松村一成

前項11の外堤護岸整備工事を実施するに伴い、境界線を明示する必要があり、境界検測をおこなった。その結果、境界点の誤差が大きい境界標識については埋設替の工事を実施することになり、その掘削（L約0.4m×W約0.4m×D約0.6m×13箇所）・埋め戻しに立ち会った。立会箇所は外堤裾部のうち、南側くびれ部から前方部隅角付近の8箇所、西渡土堤基部付近2箇所、北側南側くびれ部から前方部の3箇所である。確認された土層は、表土、現代の耕作土、近年の護岸工事施工時の裏込土であった。いずれの掘削箇所においても、遺構・遺物は認められなかった。

**13 聖武天皇佐保山南陵及び皇后天平応真仁正皇太后（安宿媛）佐保山東陵（奈良市法蓮町）御拝所その他整備工事に伴う調査**

畠傍監区、9～1月実施、担当：有馬伸・岩槻知樹・松岡隆行

掘削に伴い、石塔部材・石仏・かわらけ片などが出土している。報告文は後掲する。

**14 郡山陵墓参考地（奈良県大和郡山市新木町）外構柵整備工事に伴う調査**

畠傍監区、10～12月実施、担当：加藤一郎・西村悦二・三井朋宏

本工事に関しては、平成23年10～12月に実施した事前調査の成果を元に工法を策定したものである。本工事に伴う掘削・埋め戻しについての詳細は、後掲する。

**15 宣化天皇身狭桃花鳥坂上陵（奈良県橿原市鳥屋町）転落防止柵設置その他工事に伴う調査**

畠傍監区、1～3月実施、担当：南義孝・中野裕樹

本陵の前方部正面拝所脇から西隅角部を経由して後円部背後に至る外堤内法部において、既存石積の内側に転落防止柵設置工事（L約250m）等をおこなうこととなり、その基礎部の掘削（最大でL約1.4m×W約0.5m×D約0.6m）・埋め戻しに立ち会った。本陵では昭和51年に西側外堤の調査をおこない、現在の外堤上面から約4m下で柵みを検出しており、後世の盛土と判明している（本誌第29号参照）。今回の掘削もこの盛土内にとどまり、遺構・遺物は認められなかった。

**16 コウボ坂陵墓参考地（大阪府河内長野市寺元 観心寺内）外構柵改修工事に伴う調査**

吉市監区、11～12月実施、担当：佐々木靖秋・北田雄三

本参考地は北東から延びた丘陵上に位置する円丘である。廻りを囲う外構柵（石柵）や格子門扉を改修することとなり、基礎部の掘削に立ち会った。もっとも深く掘削（約0.8m）した北端付近の石柵改修箇所では3層が確認された。上層は黒褐色砂質土（腐葉土）、中層は粘質土まじりの黄褐色砂質土（後世の盛土）、下層は灰色粘質土（地山）である。他の箇所では上層と中層までの掘削にとどまった。遺構・遺物は確認されなかった。

**17 推古天皇磯長山田陵（大阪府南河内郡太子町山田）防災整備工事に伴う調査**

吉市監区、11～2月実施、担当：寺本公通・玉野裕弥

本陵の拝所は幕末の修陵に伴って、新設・造成されたところである。平成23年度には緊急に拝所南西（向かって左側）の石垣隅角部において崩落の虞が生じてきたので積替えをおこなっている（本誌第64号参照）。今回この部分を含めて、拝所の西側前面の石積を取り解き、防災工事をおこなうことになり、掘削・埋戻し時に立ち会った。石積の裏には、裏込めに使用された径15～30cmの栗石が茶褐色土とともに厚く充填されていた。掘削箇所はすべて拝所造成時のものと考えられ、本陵築造当時の層には及んでおらず、遺構・遺物は認められなかった。

**18 百舌鳥部事務所（大阪府堺市堺区大仙町百舌鳥耳原中陵内）雨水排水管改修工事に伴う調査**

古市監区、3月実施、担当：宮田一弘・安岡徹悦

百舌鳥部事務所においては、平成23年12月に改築に伴う事前調査を実施するとともに、翌24年11・12・3月には立会調査をおこなっている（本誌第64・65号参照）。今回、部事務所南側の本陵第二堤外法面の2箇所（L 1.6～1.65m × W 0.5～0.8m × D 1.8～2m）の掘削・埋め戻し時に立ち会った。とともに3層が確認され、上層は表土、中層は盛土（茶褐色の砂質土および粘質土が攪乱）、下層は地山（黄褐色粘質土）かと思われ、事前調査時の状況とほぼ同様であった。遺構・遺物は確認されなかった。

[墳丘外形調査] 1件

**19 妻鳥陵墓参考地（愛媛県四国中央市）**

古市監区、7月実施、担当：横田真吾・土屋隆史・寺本公通・玉野裕弥

本参考地は、前方後円墳説もあるが、現状では径約14mの円墳である。今回、墳丘部を中心とした現況測量（縮尺1/100、25cm等高線）を実施した。その報告は、来年度以降におこなう予定である。

平成25年度には上記調査以外に、以下のような調査も実施した。

[所蔵出土品関係資料調査] 2件

書陵部で所蔵している出土品に関する調査を、所蔵者の協力を得て以下の2機関において実施した。

**20 堺市文化財調査事務所（大阪府堺市南区稻葉1丁）**

2月実施、担当：横田真吾

平成25年度に東百舌鳥陵墓参考地の考古学的な同時調査を、堺市とおこなっている。東百舌鳥陵墓参考地の事前調査の報告を『書陵部紀要』においておこなうにあたり、堺市の調査区で出土した埴輪を確認する必要もあることから、堺市の協力を得て実施したものである。

**21 東京国立博物館（東京都台東区上野公園）**

2月実施、担当：清喜裕二・土屋隆史

現在、東京国立博物館に貸出中の宇和奈辺陵墓参考地旧陪冢ろ号（大和6号墳）（奈良市法華寺町）出土の大鉄鋌5枚に関し、熟覧・実測をおこなった。

[関係文献調査] 1件

**22 愛媛県立図書館えひめ資料室（愛媛県松山市堀之内）**

古市監区、7月実施、担当：横田真吾・土屋隆史・寺本公通・玉野裕弥

妻鳥陵墓参考地の墳丘外形調査に併せて、当該図書館が所蔵している本参考地関係資料の調査をおこなった。

[協定書に基づく出土品調査] 1件

**23 九州国立博物館（福岡県太宰府市石坂）ほか**

i) 8月実施、担当：徳田誠志

ii) 11月実施、担当：加藤一郎・横田真吾

iii) 2月実施、担当：清喜裕二・土屋隆史

九州国立博物館において、文化交流展示「天皇陵のたからもの」（会期9月25日～3月9日）が開催された。このことを機会に当部と九州国立博物館では、「宮内庁書陵部所蔵考古資料の調査・展示に関する協定書」を締結し、当部が所蔵する九州地方出土考古資料に対する調査研究ならびに公開活用について相互に協力することとした。具体的には、御所山古墳（福岡県京都郡苅田町）、門前の石棺古墳（熊本県八代市岡町字谷川）などの出土品を出陳するとともに、九州国立博物館が所有する分析機器を用いて材質構

造や製作技法の調査をおこない、当部は今後の保存計画に資する情報を収集し、九州国立博物館は資料の活用に関する情報を収集するというものであった。

i) については、調査の事前打ち合わせをおこなった。ii) については、御所山古墳出土品の分析結果を検討するとともに、当時地元教育委員会の調査がおこなわれていることもあり、現地を見学した。iii) については、門前の石棺古墳と宮穴横穴群（熊本市）の出土品に関して、地元教育委員会や九州国立博物館から現状や公文書に関する調査報告がなされ、九州国立博物館の分析結果の報告をふまえた検討が併せておこなわれた。

なお、本件に伴う出張旅費は、九州国立博物館の負担においておこなったものである。（福尾正彦）